

日時： 2015 年 1 月 10 日(土) 10:30～11:15

場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市野路東 1 丁目 1-1）

ローム記念館 3F 展示室

出席者：朝倉清高、雨宮慶幸（企画委員長）、石井孝浩、上田和浩、尾嶋正治、川添真幸、坂田修身、櫻井吉晴、鈴木 直、堂前和彦、松井純爾（副会長：産業）、水木純一郎、村上洋一、渡邊信久、岡島敏浩、岡本 亨、大門 寛、高原 淳（会長）、巽 修平、月原富武、中川敦史（副会長：学術）、野間 敬、渡辺義夫

幹事：原田慈久、杉本 宏、久保田佳基、佐々木園、西堀麻衣子、加藤健一、西堀英治

オブザーバ：高田昌樹、野田健治、鈴木昌世、石田浩康、木下豊彦、杉本正吾、八木克仁、山本幸二、垣口伸二

事務局：坂川琢磨

1. 前回議事録の承認

2. 報告事項

(1) 幹事報告

・ SPring-8 シンポジウム 2014 開催報告

資料に基づき、久保田 SPring-8 シンポジウム 2014 担当幹事より報告があった。

・ SPring-8 シンポジウム 2015 開催について

西堀（麻）行事幹事より、SPring-8 シンポジウム 2015 が 2015 年 9 月 19 日・20 日に九州大学伊都キャンパスにて開催される旨紹介された。会場は確保済みであるが、メイン会場についてはさらに広い会場を検討中であると報告があった。

・ SPring-8 シンポジウム 2014 決算および H26 年度 SPRUC 予算執行状況報告

資料に基づき、久保田会計幹事より SPRUC 予算執行状況について報告があった。今年度は利用懇練越金の取崩し額が多くおよそ 250 万円執行する見込みであり、今後、研究会旅費は新規研究会立ち上げに関わる会員外講師の招聘などに利用するような方向でお願いしたいと説明があった。

(2) 分野融合型研究グループの発足について

資料に基づき、中川 WG 代表より分野融合型研究グループの概要等について説明があった。4 研究グループのうちナノデバイス科学、分子機能性材料研究グループが立ち上がったとの報告があった。

(3) 分野融合型研究ワークショップ開催について

中川 WG 代表より平成 27 年 2 月 19 日に秋葉原コンベンションホールにて分野融合型研究ワークショップが開催されることが報告され、プログラム概要について説明があった。

(4) 研究会による WS 等開催状況

中川利用副委員長より研究会によるワークショップ等の開催状況について報告があった。

(5) 選挙管理委員会報告

資料に基づき、加藤選挙管理委員長より第 4 回評議員選挙結果について説明があった。産業機関評議員の不信任票数が多く、選挙方法について検討が必要であると説明があった。

3. 審議事項

(1) 評議員選挙に関する改善点と審議事項

加藤選挙管理委員長より、Web 投票システムについて検討することと産業機関の候補者の選挙方法について提案があった。

産業機関候補者の不信任票が多かったのは、今回から学術の投票方法と統一するために信任の場合はチェックを入れるように変更したが、産業候補者のチェックを入れる欄が学術候補者の下方にありわかりにくいため、未投票により意図しない不信任票が多くなったと考えられる。また、セキュリティの問題で投票サイトにアクセスできない企業関係者が多数いたため、途中から PDF で投票できるようにしたが、結果的に PDF 投票は多くはなかった。今後は、投票率を上げるためにも、独自の Web 投票システムの構築等について検討することとなった。

産業機関候補者の選挙方法について、以下の意見交換があった。

- ・ SPRUC 立ち上げ当初、学術と産業の割合は 2 : 1 程度が望ましいと考えたが、産業の候補者が少ないためバランスを確保するのが難しいと予想した。そして、実際には定員と同数の候補者が挙げられたという経緯がある。
- ・ 企業の立場としては信任投票が望ましい。個人が立候補することについて会社を説得するのは難しい。ただし、産業機関候補者の定数を変えていくことはあり得るであろう。
- ・ 産業機関候補者の名前は多くの会員には知られていないため、当落選が僅差になる可能性が高く、投票はあまり意味がないのではないか。
- ・ 例えば、化学会では学術は選挙で選んでいるが、産業はバランスを見ながら信任投票している。

SPRUC でも候補が挙げられた後は、透明性を確保しながら企業のバランスを見て、必要なら調整するのが良いのではないか。

意見交換の結果、産業機関候補者はこれまでどおり信任投票とする方針が確認された。

4. その他

以下の意見交換があった。

- ・ SPring-8 シンポジウムの参加者は年々多くなっており、シンポジウムが SPRUC の重要な activity となっているので今後も盛会となることを期待している。
- ・ 現在、SPRUC の予算は利用懇の繰越金と JASRI の協定分担金を充てている。別途、利用者の動向調査の対価として JASRI 経由で予算を得ているが、SPRUC として自立的に活動しようとするときには使用できる予算がない。今後、文科省などから予算を受けることができる組織になることが重要であり、予算の受け皿となる法人化が必要である。高原会長より、法人化を行う場合は、簡単にかつ会員の皆様に負担をかけることなく運営できるよう考えていきたいと発言があった。
- ・ 法人化で想定しているのは公益社団法人か、それとも一般法人かという質問に対し、雨宮前会長より公益法人はハードルが高いと聞いているので、高原会長が言われたように、簡単で負担の少ない方法で財源を確保できるのが良いと考えていると回答があった。

資料1. 平成26年度第2回評議員会議事録（案）

資料2. 行事幹事報告：SPring-8シンポジウム2014・SPring-8シンポジウム2015

資料3. 会計幹事報告：SPring-8シンポジウム2014会計決算

資料4. 会計幹事報告：平成26年度ユーザー協同体予算執行状況

資料5. SPRUC におけるSPring-8 分野融合研究開拓の推進について

資料6. 分野融合型研究ワークショップについて

資料7. 利用委員会報告：各研究会によるワークショップ等開催状況

資料8. 第4回評議員選挙結果について

資料9. 評議員選挙に関する改善点と周知事項